

「九州地方における深層崩壊検討委員会」のまとめ

1) 九州地方における深層崩壊の実態と特徴について

- ・ 四万十層群などの付加体の地形、地質は紀伊山地と同様の特性であるため、九州でも紀伊山地と同様の崩壊が起こりうる。
- ・ 九州地方特有の火山岩斜面、火砕流台地の斜面、奄美大島の堆積岩斜面などでも深層崩壊が発生している。
- ・ 湧水の量、濁度、電気伝導度の変化を深層崩壊の警戒避難体制に利用できる可能性がある。

2) これまでの取り組み状況について

- ・ 平成 23 年に発生した紀伊半島の深層崩壊などの大規模土砂災害の対応状況が確認された。

3) 深層崩壊における対応策について

- ・ 「深層崩壊における対応策の概念(案)」に基づき、深層崩壊の規模に応じた、ハード対策・ソフト対策を検討する。
- ・ 「大規模崩壊監視警戒システムの構築」について崩壊規模約100万m³の深層崩壊を検知する方針で振動センサーを設置する。
- ・ 「深層崩壊に対する砂防施設の効果検討」について、シミュレーションを用いて効果、補強・嵩上げ等を検討する。
- ・ 「深層崩壊発生時の危機管理に必要な体制・準備」について、緊急調査、監視システム構築、応急対策など時系列的な整理とともに、想定する崩壊発生箇所周辺の道路などのインフラの状況を基に検討する。

○ 主な指摘事項等

- ・ 九州の崩壊事例のまとめについては発生頻度がわかるように発生日時についても整理した方がよい。
- ・ 警戒避難については本委員会のもと、来年に検討していきたい。